

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2674100439
法人名	医療法人社団 洛和会
事業所名	洛和グループホーム勸修Ⅱ番館
所在地	京都市山科区勸修寺西金ヶ崎238番地 (電話) 075-582-8211

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	3月	31日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	30 人	常勤	15 人,	非常勤 15 人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000~68,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,670 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 洛和会音羽病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークを持つ洛和ヘルスケアシステムが運営するグループホームの一つです。ホームの前を澄んだきれいな川が流れ、その周りには季節の花々が咲く遊歩道が整備されており、徒歩圏内に勸修寺もあり散歩コースにも恵まれたとても環境の良い中に立地しています。入居者一人ひとりのペースに合った、思い思いの自由な暮らしが支援されており、職員との信頼関係の中で、出来る事をしてもらいながら、入居者同士思いやりを持って共同生活をされています。ユニット間、法人内の連携がしっかりとられており、協力的体制はもちろん、それぞれの良いところを取り入れていながらサービスの質の向上に努められています。グループホームらしいグループホームを目指して、管理者、職員は一丸となり、その人らしい暮らしの継続に向けて日々取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目についてはすぐに話し合わせ改善しています。特に地域に向けての働きかけについては出来る事から一歩ずつ取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者とユニットリーダーが中心になり自己評価をして、会議にて職員と具体的に話し合わせ、作り上げています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、地域包括支援センター、民生委員が出席する運営推進会議では、ホームでの取り組みの報告のほか、地域の情報を得る重要な場となっています。以前に内覧会にて地域の方にもホームに足を運んで頂く機会とされており、今後も地域の理解と支援をえるための貴重な機会となるようさらなる取り組みが期待されます。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームに来られた際に意見や要望を言えるような関係づくりに日頃から取り組まれています。運営推進会議への出席や玄関の苦情箱設置など、気軽に表せる機会を設けています。また、家族アンケートにて得られた意見については話し合わせ、検討しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ふれあい教室での地域高齢者との交流や小学校での地域活動に参加したり、ホームで夏祭りを開催した際には、近所の方がたくさん来られています。自治会への入会が困難な状況ではありますが、地域に向けての働きかけを行い、今後は回覧版などを通してグループホームについての催し等を伝える予定です。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	洛和会の法人としての共通理念、ホーム独自の「グループホームらしいグループホームを目指して」をみんなで話し合っつくりされており、地域との関わりについても引き続き働きかけていく事も盛り込まれている。	○	地域的な事もあり、地域密着型サービスとしての関わりがなかなか難しいが、理念の中に地域との関係性を盛り込み、ホームからの働きかけで地域の中での暮らしやその人らしく生活していくことについて支援することにも取り組んでいる。グループホーム独自の理念を今後掲げられると更に良いのではないのでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議や日々のケアの中で管理者と職員は話し合いながら理念の共有、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあい教室での地域高齢者との交流や小学校での地域活動に参加したり、ホームで夏祭りを開催し、近所の方がたくさん来られている。自治会への入会が困難な状況であるが、地域に向けての働きかけを行い、今後は回覧版などでグループホームについてや催し等を伝える予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とユニットリーダーが中心になり自己評価をして、会議にて職員と具体的に話し合わせ、作り上げている。前回の改善項目についてはすぐに対応して取り組まれている。特に地域に向けての働きかけについては出来る事から一歩ずつ取り組まれている。	○	自己評価については職員は目を通し、理解している。今後も全員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りや自信につながる事で、より質の確保に活かしていく事が期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域包括支援センター、民生委員が出席する運営推進会議では、ホームでの取り組みの報告のほか、地域の情報を得る重要な場となっている。	○	以前に内覧会にて地域の方にもホームに足を運んで頂く機会とされている。今後も地域の理解と支援をえるための貴重な機会となるようさらなる取り組みが期待される。

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政の方には運営推進会議の報告をしたり、相談したり、気軽に話せる関係づくりがされている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族がホームに来られた際や電話、手紙にて入居者の日頃の暮らしぶりや健康状態について伝えている。また、季刊誌にて職員の紹介やホームでの様子を報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームに来られた際に意見や要望を言えるような関係づくりに日頃から取り組まれている。運営推進会議への出席や玄関の苦情箱設置など気軽に表せる機会を設けている。また、家族アンケートにて得られた意見については話し合い、検討している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職が少なく、馴染みの職員が対応する事が重要であると考えられており、異動の際は少人数にするなど入居者の混乱を防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での研修年間計画が立てられており、段階に応じた現任、新任の内部研修や外部研修に出来るだけ出席している。受講後は報告書を作成し、会議にて伝達研修をしている。また、ユニット毎で勉強会を実施している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修や交流会を行っているグループホーム協議会への参加や、他のグループホームからの見学にて職員の交流を図っている。また、同法人のホームが地域に4箇所あり、横のつながりも取れている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者が必ず入居者と会い、また、見学の際はリビングで他の入居者と一緒に過ごしてもらうなど、馴染んでもらえるよう、関係づくりを大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの「共に支え合い生きる」という法人理念を基にケアを提供しており、日々の生活の中で入居者より昔の事や料理などたくさん教えてもらう機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して情報収集に努めており、法人独自の24時間シートにて一人ひとりの把握に努め、職員全員でカンファレンスを行い話し合いながら本人本位について検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントを行い、入居者の意見や希望は日々の会話の中で日誌に残し、家族には希望を聞く用紙を送付して意見を求めたり、来訪時に相談し、ほぼ全職員が参加するカンファレンスにて話し合い、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に基づいて3ヶ月に一度の見直しを実施しており、状態変化があった場合はすぐに対応している。必要な場合は医師や看護師の意見も聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助や美容院、お墓参り、銭湯、デパートへの買物などの個別外出を状況に応じて柔軟に対応し、行事としても1対1の個別外出を入居者、家族、職員と話し合い支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談して、主治医を決めている。かかりつけ医による往診、訪問看護ステーションとの連携にて看護師が定期的に健康管理に来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としてのターミナル指針については家族の同意を得ている。ターミナルケアに入る場合は家族の意向を把握しつつ、主治医、看護師、職員と話し合いを持ちながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの関係をつくりながら、一人ひとりの尊厳を大切に言葉掛けや対応に配慮している。個人情報については鍵付ロッカーで管理している。また、研修にて職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で生活リズムづくりがされているが、特に時間を決めず、出来るだけ個別の対応がされており、本人のペースに合わせて支援している。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	考える過程を大切にしており、献立は入居者と一緒に好みを聞いたり、旬のものを取り入れている。調理、配膳、食事、後片付けは個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴支援がなされており、希望を聞きながら入りたい時に入れる支援がされている。夜は20:00まで入浴可能な体制がとられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式にて一人ひとりの把握に努め、何をしてもえらるかを常に考えながら声掛けをしており、ボタン付けやプランターの世話、水やり、金魚や亀のえさやり、洗車など役割を持ってもらうように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は外出したい時に自由に散歩へ出掛けている。また、車いすの方にも買物や散歩など声掛けを行い、希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けない暮らしの大切さを理解しており、ユニット間の連携、見守りを徹底しながら日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。また、近隣の方との連携も取れている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署による防災訓練、2ヶ月に1回、ホーム独自で通報訓練、夜間を想定した訓練、消化器具の使い方などの訓練を行っている。また運営推進会議において、地域の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は一人ひとり記録し、水分摂取量は必要な方のみ把握している。食事についても一人ひとりの状態に応じて刻み食や糖尿食を提供している。また、法人の栄養士に、献立をチェックしてもらい、アドバイスをもらう体制がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の花を飾ったり、暖簾を掛けたり、昔なつかしく感じる棚や水屋を置いて居心地良い雰囲気づくりがされている。リビングや廊下部分にはソファやベンチを置いて、入居者が思い思いに過ごせる場所の確保をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら馴染みの家具や仏壇、コタツ、鏡台、テレビなどを持ってきてもらい、その方に合った居室づくりをしている。		